

英国ダービーシャー姉妹都市提携25周年記念
豊田市ジュニアマーチングバンド英国派遣報告書



2023年8月6日(日)～8月12日(土)

目 次

- はしがき p. 1
- 派遣日程 p. 2
- 豊田市ジュニアマーチングバンド英国派遣団名簿 . . . p. 3
- 派遣報告（派遣団団長） p. 4
- 派遣報告（派遣団員） p. 5～43
- 活動写真 p. 44～53

は し が き

豊田市長 太田 稔彦

豊田市と英国ダービーシャー県・ダービー特別市・南ダービーシャー市は、1989年にトヨタ自動車株式会社の現地法人が南ダービーシャー市バーナストン地区に設立されたことがきっかけで交流を開始し、1998年11月に姉妹都市提携を結びました。以来、市民を主体とした様々な交流の歴史を重ね、相互理解と友情を育んでまいりました。

令和5年度豊田市ジュニアマーチングバンド英国派遣事業は、豊田市と英国ダービーシャーとの姉妹都市提携25周年記念事業の一環として、青少年による音楽交流を通じて両都市の友好関係をさらに深めること、また、現地での公演や聴衆との交流を通じて、国際感覚を持った人材の育成に繋げることを目的として実施しました。

今回の派遣事業に参加した団員30名及び引率8名が、約1週間に及ぶ派遣事業を無事に終え、ここに、英国での活動の様子や異文化体験等の記録を報告書としてまとめました。多くの皆様にご覧いただき、団員の成長や姉妹都市ならではの交流事業の意義を感じ取っていただければ幸いです。

今回の派遣を通じて、団員は英語でコミュニケーションを取ることの難しさを感じたと思います。その一方で、音楽を通じ、言葉の壁を越えてつながりを深めることができることを実感できたのではないかと思います。

都市の国際化の進展には、市の将来を担う若い世代の皆様の国際的な感覚と行動力が不可欠です。今回、派遣事業に参加した皆様が、それぞれの立場で豊田市とダービーシャーの架け橋になっていただくことを期待しています。

おわりに、今回の派遣事業に多大なるご理解とご協力をいただきましたご家族の皆様、公益財団法人豊田市文化振興財団の関係者の方々をはじめ、派遣団に貴重な機会と経験を与えてくださった多くの関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

派遣行程（時間は現地時刻）

◆ 8月6日（日）～7日（月）

時間	内容	詳細
13:00	集合・出発<豊田市役所>	バス移動
19:30	<羽田空港>着	
21:50	<羽田空港>発	フィンエア-[AY062]
時間	内容	詳細
<7日（月）>		
9:10	<ロンドン・ヒースロー空港>着	
10:40	<ロンドン・ヒースロー空港>発	
18:30	宿泊場所 着	

◆ 8月8日（火） 公演① チャッツワースハウス

時間	内容	詳細
11:00	チャッツワースハウス 着	
13:00	出演・演奏	公演①
14:00	施設見学	
16:00	終了	

◆ 8月9日（水） 公演② モーリス・リー記念公園

時間	内容	詳細
10:00	モーリス・リー記念公園 着	
13:05	出演	公演②
13:30	終了	
13:30	現地バンド 鑑賞等	
16:00	終了	

◆ 8月10日（木） 公演③ ダービー大聖堂

時間	内容	詳細
14:00	出演	公演③
14:30	終了	
16:00	ダービー大聖堂 発	ロンドンへ移動

◆ 8月11日（金）～12日（土）

時間	内容	詳細
10:20	<ヒースロー空港>発	フィンエア-[AY1332]
18:30	<ヘルシンキ空港>発	フィンエア-[AY061]
<12日（土）>		
13:50	<羽田空港>着	
15:00	<羽田空港>発	バス移動
20:15	<豊田市役所>着	

その他

日時・場所	内容
7月30日（日） 15:30～16:00 高岡公園体育館	派遣前 豊田市長・市議会議長 激励
8月17日（木） 11:00～11:30 市役所南72委員会室	派遣後 豊田市長・市議会議長 表敬

豊田市ジュニアマーチングバンド英国派遣団名簿

【団員】

Brass 管楽器		
Trumpet トランペット		
社会人	岩田 知也	
社会人	岩田 尚也	
大学1年生	岩崎 将大	
大学1年生	小田 ひより	
高校3年生	青山 遥香	
高校3年生	長嶋 萌英	
中学2年生	柳原 圭佑	
Mellophone メロフォン		
大学3年生	長瀬 芙月	
高校3年生	岩崎 真弥	
Baritone バリトン		
大学2年生	佐合 麗生	
大学2年生	古畑 美音	
大学1年生	岩崎 小桜	
高校3年生	石塚 友菜	
Euphonium ユーフォニウム		
専門学校2年生	青山 真衣	
高校1年生	熊谷 日菜香	
Tuba チューバ		
社会人	杉山 実玲	

Drum 打楽器		
Snare Drum スネアドラム		
大学1年生	高濱 大心	
Bass Drum バスドラム		
中学2年生	板倉 悠真	
Front Pit フロントピット		
社会人	荒木 せいあ	
社会人	新田 桃子	
社会人	六畑 葉月	
高校1年生	桑原 悠名	
高校1年生	小嶋 美月	
中学2年生	熊谷 日真里	
Colour Guard カラーガード		
社会人	金田 美優	
大学1年生	竹川 恵	
大学1年生	柳原 陽向	
高校2年生	古川 菜々美	
高校2年生	柳原 晏吏	
中学2年生	松浦 芹香	

社会人・専門学校生・大学生	17名
高校生	9名
中学生	4名
団員合計	30名

【引率者】

	役職	名前
指導者	インストラクター	飯盛 孝宏
	インストラクター	上妻 美都紀
事務局	主事	鈴木 達也
	主事	水谷 友輔

【アシスタント(団員待遇指導者)】

	役職	名前
指導者	アシスタント	山田 拓未
	アシスタント	小野 琉聖
	アシスタント	杉本 宗都
	アシスタント	美濃羽 伸乃介

派遣団総勢 38名

【随行】豊田市国際まちづくり推進課 平田 崇

英国派遣を経験して

派遣団団長 鈴木 達也

ジュニアマーチングバンドの事務局 2 年目を迎えた今年度、英国派遣団の派遣団長として英国ダービーシャーへ渡航しました。ジュニアマーチングバンドは毎年大会への出場、全国大会出場走行会、各地域イベントの出演など多くの場面で演奏を披露していますが、今回は海外という珍しい機会での演奏となりました。

派遣を通じて私が感じたことは団員の成長です。今回の派遣メンバーは所属が2年目以上かつ中学生以上ですが、全員堂々と演奏ができたと思います。英国派遣の練習は通常練習の後、夜間の時間帯に追加で練習をしていました。通常の大会に向けての練習に加え、英国派遣の練習があるので、大変なスケジュールの対応でしたが、全員でやり切ってもらえました。

3日間の公演ですが、英国からの詳細な情報もあまりない中で先生方と団員で臨機応変にやり遂げていただきました。

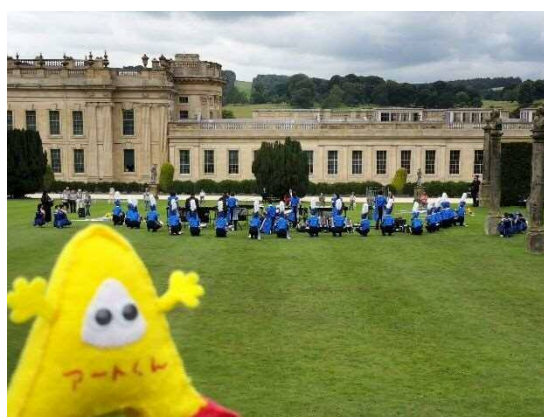
当日のイベントも多くの方に見ていただき、豊田市ジュニアマーチングバンドという団体を英国でも認識していただく機会になったと思います。

演奏のみではなく、現地の観覧された方、店員さん、現地で生活している日本人（通訳さん）、現地の職員など普段では関わることのない方と接することでコミュニティが広がり、今後の生活への自信にも繋がったと思います。

自分自身は派遣団団長としてダービーシャー各都市の議長らと挨拶し、ジュニアマーチングバンドの素晴らしさと、英国で演奏できる感謝を伝えました。議長も喜んで公演を見ていただきました。

現地で公演時間の長さが急遽変更となったことや演奏者の欠員など緊急事態もありましたが、団全体でその危機を乗り越えることができたと思います。

この英国派遣の経験を今後の団及び事務局としての行動に活かしていければと考えています。



英国派遣について

トランペット 青山遥香

英国派遣での日本とは少し違った空気感で行ったパフォーマンスはとても新鮮で、大きな刺激を受けました。どの公演にも、大きな拍手や、リズムに乗って演奏を楽しんでくれる人、声援を送ってくれる人がいて、言語の壁を越え、音楽とパフォーマンスで観客を楽しませることができたのではないかと思います。

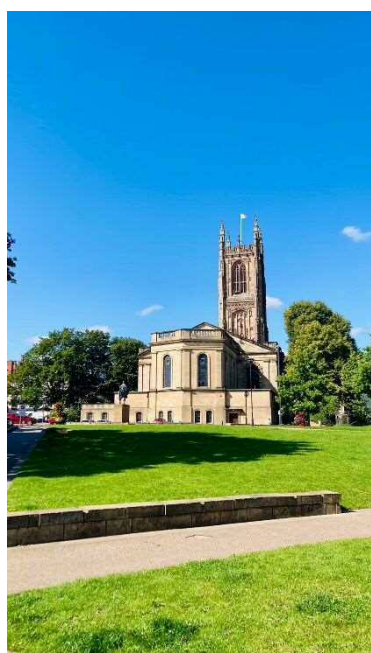
特にそれを感じたのは、8月9日のモーリス・リー記念公園での公演と、8月10日のダービー大聖堂での公演前に行った、路上での客寄せ演奏です。あれほど目と鼻の先に観客がいる中で演奏するのは初めてでしたが、観客を強く意識しながらの演奏はとても楽しかったです。手拍子を求めたら返してくれたり、久しぶりに声援を聞くことができ、本当に楽しみながら演奏することができました。そして、観客を楽しませるパフォーマンスをできるようになりたい、もっとそういう演奏をしたいと強く思いました。

また、3回の公演中で、特に印象的だったのが、8月10日のダービー大聖堂での公演です。先程述べた客寄せ演奏もですが、聖堂内で行った本番の公演は、会場の雰囲気も合わさってとても緊張しました。この日に演奏したアンサンブルはとても難しい曲だったので、私は本番当日のみならず、練習でもとても緊張していましたが、いざ会場で観客の前で演奏するとなると、本当にわくわくして、演奏中も楽しくて仕方なかったです。やっぱりお客さんの前で演奏するのは楽しい、と改めて強く感じることができました。

英国派遣は、私にマーチングや楽器を演奏することの楽しさを再確認させてくれたと共に、技術の向上にも繋がったので、参加して本当に良かったと思います。

また、今回の派遣を通じて、私たちに応援してくれたり、サポートしてくれる方々の大切さを強く感じました。今回の派遣に関わってくれた皆さんには本当に感謝しています。

今後の活動でも今回の派遣での学びを忘れずに、練習に励んでいきたいと思っています。



イギリス派遣

ユーフォニウム 青山 真衣

今回のイギリス派遣は1年前からお話があり、とても楽しみにしていました。私は初めての海外でもあり、楽しみと共に不安要素もありましたが大好きなメンバーと行けたイギリス派遣はとても楽しい思い出になりました。

イギリスに行き、街並みから文化、食事など全てに刺激を受けました。日本にはない建物の作りや物凄く大きな建物であったり、広大な草原に羊がいたりテレビや画像でしか見たことのない風景を実際に見るのは思わず声が出てしまうくらい素敵なもので、写真も数え切れないほど撮りました。イギリスの文化に触れたり、現地の人との交流をしていく中で私は英語が喋れないので現地の人と交流をすることが難しかったです。何回も英語が喋れたらいいなと思ったし、通訳さんらがペラペラ現地の人と交流しているのを見て羨ましかったです。

イギリス派遣のメインの公演では、最初は初めて演奏する土地でお客さんが来てくれるのかすら不安でしたが、公演が始まると想像以上のお客さんが公演を見に来てくれて嬉しかったです。そして、公演でも日本とイギリスの違いがあるなと感じました。日本だと最初と最後に拍手をもらうくらいですが、イギリスでは知っている曲であれば一緒に歌ってくれるお客さんがいたり、口笛を吹いてくれたりお客さんたちが盛り上がっている光景を見ると演奏している私たちも嬉しかったですし、お客さんにいいものを届けることができたという実感が湧きました。

最後の公演の大聖堂は1番緊張しました。前の二公演とは違った雰囲気にも圧倒されてしまいました。公演で失敗してしまったのが唯一の心残りになってしまいました。

マーチングで海外派遣に行けるといってとても貴重な経験をさせてくださってありがとうございました。またこういった機会を作って頂きたいです！よろしくお願いします！



社会人が感じた初めての海外

フロントピット 荒木せいあ

まず始めに、豊田市ジュニアマーチングバンドとしてイギリスで演奏する機会をいただき、誠にありがとうございます。これも応援して下さる関係者の皆さまをはじめ、姉妹都市であるダービーシャーと良好な関係を築き上げてくださった先輩方・他団体・教育機関、豊田市の金銭面補助のお陰です。また、今回安全に出帰国、現地での行動をサポートしていただきました事務局さん、JTB 職員さん、通訳さん、現地バスドライバー等々たくさんの方の協力あって無事に終わることができました。重ねてお礼申し上げます。

ここからは、私の初めての海外経験について感想を述べようと思います。

まず荷造りの段階から苦悩しておりました。スーツケースのサイズ限度や、飛行機・イギリスへの持ち込み制限のあるもの等、調べることが多く自分 1 人では何も進まなかったのですが、同じパートメンバーが情報共有してくれたお陰で何とかまとめることができました。ここで、普段の練習では見ることができない各々の得意分野が分かったと感じております。また長期間の生活を共にして、メンバーとの仲がより深まったと感じました。よく旅行に行くと相性が分かると聞きますが、パートメンバーは何も変わらずイギリスでも普段通りの皆だったため、相性がいいことが再確認できました。逆に他パートとはやっぱり色が違うなと認識しました。

イギリスで生活した 5 日間。どれも珍しい景色、物ばかりで印象に残っておりますが、社会人となった今 1 番楽しかった思い出は寮での夜、中高生に混ざり遅い時間まで恋バナをしたことです。学生時代の青春を思い出し、更には再び体験することができたからです。これも TOYOTA Illusion Magic に所属しているからこそその事だと思えます。

この度は、TOYOTA Illusion Magic 最後の年にイギリス派遣という貴重な経験をさせていただき、本当ありがとうございました。今後とも TOYOTA Illusion Magic を、どうぞよろしくお願いいたします。



沢山の経験ができた 1 週間

バリトン 石塚友菜

私は初めての海外がこの今回のイギリス派遣でした。いきなり初めての海外でのフライト時間が 10 時間以上で長い間飛行機で過ごすので体調を崩さずに行けるか不安な部分がありました。ですが飛行機の中では楽しく過ごすことができ、気づけばヘルシンキに付いていて、乗り継ぎだったのでまた飛行機に乗りましたが 2 回目の飛行機もあっという間でした。

ヒースロー空港につき外に出た時には The ヨーロッパっていう景色でその時の感情の高まりは一生忘れないと思います。映画でみるようなレンガでできた家、写真で見るとも綺麗で大きかったビックベン、本当にイギリス一日目は濃厚でした。夜ご飯を食べるために夜、イギリスの街を歩いている時は酔っ払った人が遠くから話しかけてきてとても怖かったですけど、夜空は日本と全然違い、グラデーションがかかった空でとても綺麗でした。

寮では一人部屋だったので次の日 1 人でちゃんと起きれるか不安でしたがワクワクが強すぎたのでしょうか、起床時間の 2 時間前には起きました。これは最終日のロンドンのホテル以外全てこのような感じで早起きでした。

公演 1 日目、屋外の演奏会場は勾配もあり、天気もあまり良くなく、自分の中では成功することができるかとても不安でした。ですがリハーサルの時から多くのお客さんが来て下さり、本番はさらに人が増え日本でのイベントをやっている時に比べ、緊張よりも楽しんでいるお客さんの顔を見てほっとする気持ちになりました。

2 日目の公演では、演奏時間が増えたため急遽演奏する曲が増えたりしましたがお客さんはノリノリで小さい子はガードさんのフリを真似してくれているのを見てもっと演奏していきたい気持ちでいっぱいになりました。

3 日目の公演では自分の中では 1 番頑張ったアンサンブルの本番の日でした。毎晩みんなで集まって遅くまで歌い、ほかのメンバーに聞いてもらってアドバイスをもらって改善したりととても努力しました。その分緊張は大きかったですけど他の子からの感想ですごく上手だったと言って貰え嬉しくて涙が出そうになりました。本当にみんなで頑張った良かったと思えました。イギリスの人と会話をする時は習っている単語を必死に思い出しながら英語でなんか話そうとしましたがやはり伝わらなくてもっと勉強しなければと思えました。

このようにイギリスでは多くの学びと楽しさを感じることができました。ですが私は特にメンバーともっと仲良くなれたことが 1 番嬉しかったです。パートも違ったりで中々普段話すことの出来ないメンバーとこの機会に沢山話することができ、仲良くなれたことが本当に嬉しいです。このような素晴らしい機会を下さりありがとうございます。とても楽しい 1 週間でした。



英国派遣の思い出

ドラム 板倉悠真

初めての海外。行く前は不安とワクワクした気持ちでスーツケースに荷物をいっぱい詰めて準備をしていました。長いと思った13時間のフライトもあっという間にロンドンへ。飛行機を降りて1番最初に感じたことは、空が大きく見えたこと。のどかな大草原で公演にたくさんの人が集まってくれて、拍手で応援してもらいました。リハーサルの時には、『本番は何時から？見に来るね！』と聞いてくる人もいました。英国の人々に豊田市マーチングバンドを知ってもらうことができ、楽しみにしてくれる人のために一生懸命演奏したいと思いました。言葉が通じなくても身体を揺らしてリズムに乗ってくれる人の姿を見て、音楽で繋がる事が分かりとても嬉しかったです。

1番印象に残っているのはチャッツワース・ハウス。この広い土地が個人の私有地だと聞いて驚いたのと、中は美術館のように壁に絵が書かれていたり、像があったりなど室内はとても素晴らしかったです。そんな空間にいた自分は不思議な感覚でした。

イギリスでの1週間の中で、楽しかったことは、団員メンバーと一緒に街並みを歩いて、スーパーで自分の食べたい朝食を買ったりお土産を買ったことです。でも、会計をする時、英語で質問された事が聞き取れたのは数字だけ。どの硬貨や紙幣を出したら良いのか分かりませんでした。何回か買い物をしているうちに緊張も解けて、自信が持てる様になり良い経験となりました。現地の人と会話が出来れば、もっと色々なことが分かるから、言語を勉強し、また海外に行きたいと思いました。

英国派遣で普段ではできないようなとても貴重な体験ができたこと、お世話になった事務局さん、先生方、団員の仲間、両親に感謝します。ここで得た経験を今後の人生に活かしてこれからもマーチング活動を頑張っていきたいです。



「イギリス派遣を終えて」

バリトン 岩崎 小桜

2023年8月6日～2023年8月12日の1週間、豊田市とイギリス ダービーシャーの姉妹都市提携 25 周年記念事業として豊田市ジュニアマーチングバンドで遠征演奏へ行った。

私にとって初めての飛行機、海外だった。たくさん不安もあったがこのメンバーで行ったからこそ不安よりも楽しさの方が大きく、無事全公演を終えることができたと思う。

現地での指示がほとんどで、正直上手くいくか心配で気持ちが落ち着かなかった。

1 回目の公演では「チャッツワースハウス」というイギリスの貴族の方が住む家の敷地内で演奏した。リハーサルを行った時間が午前だったこともあり人が少なく、本番でお客様が集まるか心配だった。しかし本番では思っていた以上にたくさんの方が寄ってきてくださり、暖かい拍手をしてくださった。無事 1 回目を終えてほっとした。

2 回目の公演では「モーリス・リー記念公園」という自然豊かな広い公園で演奏した。

リハーサルでも本番でも手拍子をしてくださる方がいたり、小さい子たちが音楽に合わせて踊っていたり、歓声をあげてくれた方がいたり。演奏している側も見ていてとても楽しく演奏することができた。演奏後、見ていた方が声をかけてくれた。私は英語がわからないため、メンバーと添乗員の方の助けをもらい会話をした。嬉しいお言葉をかけてくださり、私自身もっと頑張ろうと思った。

最後の公演では「ダービー大聖堂」という教会で歴史ある素敵な建物内で演奏した。

この公演が私の中で 1 番心配していた。本番前に大聖堂の外へ行き、客寄せの為の演奏をした。建物内での演奏なのもあり、本当にお客様が集まるのか心配の中演奏した。そして本番、予想以上にお客様が集まってくれていた。演奏は緊張していたこともあり練習の成果を全発揮することは出来なかったが、お客様からの拍手は今でも忘れません。

今回このような機会に貴重な体験をさせていただいたことをとても光栄に思います。言語が違って音楽で現地の人と交流ができるということを実際に経験出来た事は必ず今後の糧としていきたいです。



英国派遣

メロフォン 岩崎真弥

私はイギリス派遣に行くととてもいい経験をしたと思いました。私はイギリス派遣に行く前までは海外にも行ったことがなく全てが初めてでした、一日目は豊田市役所に集合してからバスで4時間かけて羽田空港まで移動しました。羽田空港に着いて荷物検査が終わるまで2時間もかかってしまいとてもびっくりしました。パスポートの確認まで終わったら初めての飛行機です。初めての飛行機では緊張してしまい心臓がバクバクでした。飛行機が飛んで私はとても楽しくなってしまいなかなか眠れなかったです。日本からフィンランドの空港まで12時間かかりとてもびっくりしました。フィンランドに着いたらロンドンまで4時間飛行機に乗りロンドンで荷物を受け取りました。ロンドンに着くとロンドンの街を少し観光してから自分たちが泊まるダービシャーの大学の寮まで行きました。

1日目はとても忙しく自分の部屋に着いたら直ぐに寝てしまいました。

2日目は貴族の庭園で演奏をしました、貴族の庭園では、午前中にリハーサルをしてとても人が少なく本当に観客が来るか不安でした。しかしいざ本番になるとだんだんと人が集まってきていつのまにかたくさんの人でいっぱいとても楽しく演奏がすることができました。本番が終わると少し観光をしてから寮に戻りました。寮に戻ってからメンバーと夜ご飯を食べに行きました。イギリスのご飯は日本とは違ってお米がなくてとても新鮮でした。お腹いっぱい食べてから寮に戻り寝ました。

3日目は公園での演奏をしてとても楽しかったです。イギリスの小さい子たちがガードさんと一緒になって踊っているのを見て、音楽は世界共通だと知りとても嬉しかったです。

4日目は大聖堂での公演で貴族の庭園や公園とは違いとても緊張していました。大聖堂での演奏は自分が不安だった曲もあったけど無事に成功することができ、とても嬉しかったです。大聖堂の演奏が終わるとロンドンに行きホテルに泊まり次の日に日本に帰ります。ホテルでは日本に帰りたくなさすぎて、メンバーの人と朝方まで起きてイギリスでの出来事の話をして盛り上がっていました。次の日午前中の飛行機に乗り日本に帰りました。日本に着くと日本の食べものがとても食べたくなり一緒に行動していたメンバーと自販機に行きお茶を買いとても感動しました。バスに乗り最初のサービスエリアで海鮮丼を買いメンバーの人と食べてとてもびっくりしました。イギリスでのご飯も美味しかったけどやっぱり自分の国のご飯が一番美味しかったです。

豊田市役所に着くとみんなで記念撮影をして解散です。イギリスでは色々な人と関わることができこの経験を来年から社会人になるので生かしていきたいと思いました。



イギリス派遣を通して

トランペット 岩田 知也

【1 日目】 バッキンガム宮殿、ビッグ・ベンなどイギリスの観光をしました。日本とは違う街並み、気候などに驚く部分もありましたが、道路が左側通行、右ハンドルだったり、車の会社が栄えていたり日本との共通点も見つけることができそれぞれの国の良さに気づくことができました。

【2 日目】 1 回目の公演のためチャッツワースハウスへ。想像を絶する敷地の広大さに驚くと共に、観光客が多く訪れるこの場所で演奏させて頂けることへの感謝の気持ちでいっぱいでした。1 日目と言うこともあり、盛り上がるか心配ではありましたが、沢山の方から拍手や声援を頂き少し安心しました。(写真 1)

【3 日目】 2 回目の公演のためモーリスリー公園へ。地元の音楽イベントに参加させて頂き、音楽を通じて地元の方と繋がることが出来ました。近くに住んでいる方も自分たちの演奏が聞こえて見に来たと言ってくださりイギリスに演奏をしに来てよかったと感じました。

【4 日目】 最終公演のためダービー大聖堂へ。音が響きやすく普段と演奏環境の違う中で、現地で調整し演奏するのは難しかったですが、大聖堂に合った緊張感ある演奏ができてとても良い経験が出来ました。この日は客引きのため、レストランの前などでも演奏をしましたが、イギリスの人は温かい雰囲気でも歓声をくださり演奏した自分たちも楽しませて貰う事が出来ました。(写真 2)

【まとめ】 初海外ということもあり緊張していましたが、ハプニングもいくつかありましたが、公演をする中で現地の方と関わり、会話することで、イギリスの人の温かさを感じることが出来ました。また、会話をしていなくても、楽器を吹けば小さい子が踊ってくれたり、地元の方が手を振ってくれたり、やっぱり言語の壁なんて関係ない音楽ってすばらしいと改めて感じる事が出来ました。最初は海外が怖く緊張していた自分ですが、帰ってきた今では「イギリスに行ってよかった」と自信を持って言うことができます。



英国と自国の良さ

トランペット 岩田尚也

今回はイギリス派遣に行かせて頂きありがとうございました。海外に行くという経験は今回初めてで行く前は全然実感がなく、ほんとに海外に行くのかなという感じだったんですが、行ってみたら楽しくて刺激的でほんとに一瞬で、ほんとにイギリス行ったかなって感じになっています。実際行くにあたって不安がひとつあり、行く前からどうやって集客をするのかわからないと聞いていて、こんな見知らぬ海外のバンドがいきなり演奏して観客はいるのかと思っていてウォーミングアップをしているときとかも全然人が居なくてこのまま無観客で公演するのかと思っていたんですが、リハーサルを始めたぐらいから立ち止まってみえてくれたり興味を持って近づいてきてくれる人が沢山いて、リハーサル終わったあとも何時からやるの？とか聞いてくれてなんか日本ではあまりない光景というかイギリスのいい国民性みたいな所がみえてすごい国だと感じました。

2 日目の公演はお子さんが多くてガードさんとかの演目のときに一緒に踊ってくれたりほかの演奏も結構盛り上がってくれてやっぱり言語は話せない場面は多かったですけど音楽で繋がるというか喋れなくてもこんなに音楽で繋がれるんだなって再実感できて嬉しかったです。

3 日目も客引きのために外で演奏したのに対してこたえてくれたり寮の人たちも優しくとてもいい 1 週間でした。その反面日本で体験できない怖い部分もみえて夜歩いていると声をかけられたりだとか信号はめちゃめちゃはやいとか運転はあらいとか目の当たりにして逆に日本もいい国なんだなっていう両国のいい部分を学べてすごくいい経験をする事が出来ました。

この 3 回の公演で学んだお客さんの楽しませ方などを国内のイベントでもしっかりと活かしていきたいと思います。



英国派遣

岩崎将大

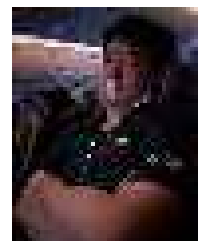
今回、私たちは姉妹都市であるイギリスのダービーシャーに行ってきました。私の人生で初めての海外がこのマーチングのメンバーで行けることがとても嬉しかったです。

1日目、僕たちは豊田市役所に集まりました。初めての海外になるメンバーも多く、ワクワクと緊張がメンバーの中にはあったかと思えます。メンバーのご家族や先生方にお見送りしてもらい羽田空港まで約6時間のバス旅がスタートしました。バスの中ではみんな元気でおしゃべりをしたり人狼をしたりワードウルフをしたりと和気藹々としていました。羽田空港に到着する頃には眠たそうにしているメンバーが増えてきたと同時に飛行機に乗るのが楽しみなメンバーもいました。私は飛行機に乗るのがとても楽しみだったので空港でもとても元気でした。飛行機に乗り窓の外を見ると今までいた日本がとても小さくなっていていよいよ海外に行くんだなーと実感したのを覚えています。飛行機の中はとても静かで快適でしたが隣にいた中国人カップルが幸せそうで気まずかったです。約12時間のフライトを終えフィンランドのヘルシンキ空港につきました。日本人は私たちぐらいしか居なくて色々な人種の方がいて海外に来たのを実感しました。ロンドンに到着すると気温が日本よりも寒く、上着を羽織らないと風邪をひいちゃうぐらい寒かったです。昼ごはんを食べるレストランではドリンクの注文を慣れない英語でメンバーが頼んでいて面白かったです。

イギリスのダービーシャーについての初の演奏披露はチャッツワースハウスの芝生でした。リハーサルをし始めると通りかかる人が足を止めて聞いてくれたり手拍子をしてくれたりと日本ではあまり見ない光景に文化の違いやイギリスの良さを感じることができました。

2回目の公演はモーリスリー公園でした。芝生の上でウォームアップをして本番に臨みました。出演の時間を急遽伸ばして欲しいと言われガードが踊る曲を増やしたりブラスがアンコール曲をやったりと現場指示が多かったです。メンバー1人ひとりがしっかりと話を聞いて動けたことで公演を成功させることができました。最後の公演はダービー大聖堂で行いました。今までの場所とは違い教会の中での出演でとても神聖でゴージャスな空間に合うような音色にするようにブラスの音を調節しました。私はガードの演目を横から見ていてイギリスの旅が終わるのがとても悲しくなったのを覚えています。

帰りのヒースロー空港では日本で待っている家族や親戚、メンバーにお土産を買いました。日本についてお茶を飲んだらうますぎました。今回のイギリス派遣は沢山の方々が協力をしていてくれました。家族、親戚、スタッフ、事務局、添乗員、ガイドさん、バスの運転手、豊田市役所で働いている方々。私たちが楽しんでこれるように動いてくれた人達のおかげで、人生で忘れる事のない思い出を作ることができました。本当にありがとうございます。



人生初のイギリス海外派遣を通して学んだこと

小田ひより

今回のイギリス海外派遣で人生初の海外に行く経験をしました。そこで私はイギリス海外派遣を通して学んだことが大きく3つありました。それについて書きます。

1つ目はイギリスの文化に触れ新しい価値観への理解が深まったことです。交通ルールは右側ハンドル、左側通行など日本と同じ部分と多かったのですが歩行者の信号が日本よりすぐ変わってしまうことや道路の真ん中に歩行者が信号待ちをする所があるなど新しい価値観に触れ日本と同じ部分と違う部分について理解が深まりました。

2つ目は日本とイギリスの食文化の違いです。イギリスでご飯を食べていて味付けが薄いように感じました。特に愛知県民は赤味噌などといった濃い味の食べ物が多いのでよりそのように感じました。そして、イギリスではバイキングに行ってもカフェに行ってもサラダが出ていないなと感じました。日本は海外よりもより沢山サラダを食べているのかなと感じ日本とイギリスの食文化の違いを実感することが出来ました。

3つ目は音楽やダンスは言語関係なく国境を越え誰でも楽しめるということです。私たちが演奏演技していた曲の中で風になりたいやフォロミーなどといった日本の曲でも見ている人皆さんが手を叩いて楽しんでいたり、小さい子はガードさんと一緒に踊っていたりする様子を見て音楽やダンスは言語関係なく国境を越え誰でも楽しめるということをととても実感しました。

このイギリス海外派遣を通して学んだことや発見したことが沢山ありました。この一週間で大好きな仲間とずっと一緒にいることができとても楽しくいい経験になりました。



英国派遣を通して

カラーガード 金田美優

今回の英国派遣では、たくさんの経験をさせていただくことができました。イギリスに行くという実感が湧かないまま飛行機に乗り、機内で長時間過ごしました。イギリスに到着するまで、合計約 16 時間のフライト、機内泊は今まで経験した事がなく、想像以上に大変でした。

初日のロンドンでは、時間が限られていましたが、バッキンガム宮殿やビッグ・ベンなどを観光することができました。今まで写真でしか見たことがなかったものを間近で見ることができてとても感動しました。

翌日からの 3 日間の公演では、各公演、現地に到着してからでないといけないことがたくさんありました。急な変更等、大変なこともたくさんあり、不安が残る中の本番でしたが、今の自分にできる最高のパフォーマンスができたと思います。見に来てくださったお客さんも、手拍子をしてくれたり、小さい子が一緒に踊ってくれたりする姿を見てとても嬉しくなりました。現地の方と一緒に盛り上がるのができてとても楽しかったです。

3 日間、常に頭フル回転でしたが、あっという間に終わってしまい、少し寂しい気持ちにもなりました。セクションを超えてメンバー全員で協力し合い、全公演を無事に終えることができて良かったです。英国派遣での公演を通して、どんな状況になってもセクションを超えてみんなで協力し合えば乗り越えられるということを改めて実感しました。今後の活動でも様々な課題が出てくると思います。そんな時こそ、今回の英国派遣のことを思い出し、みんなで力を合わせてどんな壁でも乗り越えていきたいと思いました。

この英国派遣では、音楽を通じてたくさんの方々と交流することができてとても楽しかったです。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。



コミュニケーションに必要なもの

ユーフォニウム 熊谷 日菜香

英語ができない。

これは、イギリスに行けることが決まってからの最大の不安要素だった。イギリスの公用語は当然ながら英語である。以前、「中学英語ができれば生活できる」と聞いたことがあったが、私は中学英語すらままならないのだ。

このままではまずい。高校生になり、自分なりに中学英語から勉強をやりなおした。しかし、現地の空港について早々に私は絶望した。見たことのない単語、知らない文法、聞いたこともないスラング…貼り紙や看板などは頑張れば読めるものもあったが、人が話す言葉は全くと言っていいほど理解できない。先が思いやられる中、イギリスでの一週間が始まった。

イギリスでの演奏はとても楽しかった。日本とイギリスでは、お客さんの反応がかなり違った。日本では、たまたま出かけた先の公園や路上で演奏をしている人たちがいても、素通りしてしまうことが多いだろう。聞いてくれる人も、演奏の邪魔をしないよう配慮して楽しむ。手拍子は曲の最後までずっと続ける。みんなで一緒に楽しむという感覚だ。

でもイギリスでは、リハーサルの段階から椅子やシートを用意して演奏を聞いていた。楽しければ周りが座っていても曲に合わせて踊ったり歌ったりするし、飽きたり疲れたりすれば曲の途中でも手拍子はやめる。いい意味で、各々が自由に楽しんでいるという印象だった。

「音楽だけが世界語であり、翻訳される必要がない。」音楽の父、J.S.バッハの言葉だ。世界の共通言語は音楽だけではないかもしれないが、音楽が世界共通であることは間違いないと思った。言葉が通じなくても、楽しさや美しさといった感覚は共有できる。頭ではなんとなくわかっていたつもりのことだが、それを本当に体感できたのは初めての経験だった。

英語はできた方がいい。言葉は話せる方が便利、それは間違いない。でも、コミュニケーションは言葉のやりとりじゃない。感覚を共有することが本当のコミュニケーションだ。そのために必要なものは言葉に限らず、相手の感性に直接訴えかけるものだろう。今回の派遣は、人との関わりについて改めて考えるきっかけとなった。素晴らしい機会を与えてくださった全ての人に心から感謝している。



イギリス派遣を終えて

フロントピット 熊谷日真里

私はイギリスの様々な場所で日本との違いを実感しました。まず、1番違って困ったのが食べ物です。食べ物の味付けや量が日本と違い、大変でした。見たことのない食べ物が出されて、食べられませんでした。

次は、街並みです。建物は綺麗なものが多かったです。そして、電柱や看板がなくて空が大きく見えました。あと、気温は日本より寒くて、長袖の上着を着ても寒かったです。演奏では公演会場によって自分や他の人の音の聞こえ方が違い、合わせるのが難しかったです。

また、演奏をしている時や終わった時に聴いていた人が盛り上がりすぎていて、嬉しかったです。日本人はあまり盛り上がりせずに拍手だけで終わってしまうので、とても嬉しかったです。そして、現地で借りた楽器を使っている時に、自分たちが普段使っている楽器がとても良いものだと思いました。現地の楽器は、音質があまり良くなくて、演奏がしにくかったです。だから、今までよりもっと楽器を大切に扱いたいと思いました。

イギリスのお店で、店員さんに話しかけてもらえて嬉しかったです。街中で話しかけられた時に聞き返したら、周りの大人の人たちに、すごく怒られました。

私は英語が全然出来なくて、なんて言われたのかわからなかったのですが、周りの人がすごく怒っていたので、きっと危ない人だったんだろうと思いました。危ないなと思いました。でも、怖い思いもしましたが、楽しいこともたくさんありました。現地の関係者の方が、一緒にご飯を食べている時に日本語で話しかけてくれて安心しました。英語が話せないから現地の人と喋れないと思っていたので、すごく嬉しかったです。

今回のイギリス派遣を通して、日本とイギリスのそれぞれの良さ、場所による演奏の合わせにくさなどを学んだので、これからの生活や演奏に活かしたいと思いました。



英国派遣に参加して

フロントピット 桑原 悠名

今回の英国派遣を通して様々な刺激を受け、多くのことを学ぶことができました。事前に展開されていた日程表を見たとき、演奏以外に何もしない時間が多いのかなと感じました。しかし、実際は演奏が終わってから施設の見学をしたり、多くの地元の人たちと交流したりすることができました。

演奏を始める前はお客さんがなかなかいなくて、誰もいない中で演奏するのかなと思いましたが、演奏を始めるにつれてたくさんの方が私たちの演奏に足を止めてくださったり、一緒に手拍子をして下さったりして、同じ空間で一緒に楽しむことができてすごくよかったなと思いました。日本でこのような状況になったら足を止めてくれる人は少ないのではないかなと思います。イギリスの方々はすごく優しいし、その時の思い出をすごく大切にされているのではないかなと思いました。

また、町のお店に立ち寄った時に、私たちのジャンバーを見て話しかけて下さる店主の方が多くいました。「どこから来たの?」「何しに来たの?」このようなことをたくさん質問してくれました。慣れない言語での会話は大変だし伝わっているのかすごく不安だったけれど、簡単な単語を使って話して下さったり、私たちのことを知ろうとしてく下さったりして、すごくうれしかったです。地元の人たちとの交流を経て日本とは違う人情に触れることができたとし、英語に自信を持つことができました。

イギリスに行く前は未確定な部分が多く不安が大きかったけれど、実際はとても楽しくて日本では得られないような経験をすることができました。

ここで学ぶことができたことは今後の活動に生かしていきたいなと思いました。



英国派遣事業

フロントピット 小嶋 美月

8月6日から8月12日までの6日間という短いようで長かった派遣事業でした。

私は初めての海外と飛行機ということもあり、ドキドキとワクワクが止まりませんでした。残念ながら私はバスがとても苦手で、豊田から羽田までのバス移動の後に初めての飛行機という想像の出来ない事が待っていたため、その後の体調を考慮して新幹線で行きました。ですが、同じパートの人にバスでの出来事を聞くと一緒にバスで行ったらもっと楽しかったかもしれないと思いました。それくらいバスの中の話は楽しそうでした。

初めての飛行機ではCAの方が外国人の方で英語に戸惑いましたが、学校で学んだことが少し役に立ちました。今回の派遣事業は演奏がメインでしたが、多くの英語を話す人との交流によって私はもっと外国の方との会話や、文化の交流を積極的に行っていきたいと思える印象的で楽しかった事業でした。

<演奏について>

1日目の公演 レンタル楽器はどんなものなのか分からない心配を胸に抱え会場に向かいました。周りに犬を散歩している人がまばらにいる程度だったので、いつもおいでん祭りなど最初から多くの人が集まっている会場で演奏していた私たちは、本番お客さんが集まるのか本当に心配でした。しかし、リハーサル時点で多くの散歩をしている人が足を止めて私たちの演奏を聞いて、話しかけてくれて日本との違いを感じながらも心が温まりました。短いリハーサルの中でその場の状況でできる全力を出せたと感じました。

2日目の公演 1人パーカッションの中から欠員が出てしまってとても焦りました。その人は『mira』という楽曲でソロパートがある大切な役目がある人でした。朝からパーカッション内で話し合い、同じパートの日真里ちゃんが、欠員の分を補い、私が日真里ちゃんの分と私の部分で重要なところを優先的に演奏するというものでした。2人とも会場に向かうバスで譜読みをして、緊張感漂う中本番を迎えました。

3日目の公演 1、2日目は屋外での演奏でしたが、教会の中という環境の変化による戸惑いがありましたが、2日目に行った楽譜の変更には難なく対応出来ました。2日目の演奏でミスしたところの修正もでき、私の中でいちばん良い『mira』をお客さんに届ける事が出来たと思います。

帰りの空港へ向かう最中、多くのメンバーから発せられる言葉はイギリスにまだいたい、もっと演奏したかった。日本についてからは、暑い、もうイギリスに行きたい。でも、やっぱり日本食が1番美味しい！

イギリスの良さ、日本の良さ、演奏の楽しさなど多くのことを学び、感じ、体験でき、一生印象に残る6日間となりました。



イギリスの思い出（と、文章内の僕の成長と衰退）

バリトン 佐合 麗生

出発当日、僕はウキウキして全然寝られませんでした。でも、朝の6時に起きてしまいました。僕は集合時間の15分前に着いたのですが、みんなはもっと早く着いていたみたいです。みんなウキウキだったと思います。行きのバスは岩崎真弥さんと隣でした。僕が「ドキドキだね、楽しみだね」と言うと、岩田尚也くんが「お前そのテンションでいくの?」と言ってきました。バスに長い時間乗って、やっと空港に着きました。飛行機は羽田空港からヘルシンキ空港の13時間とヘルシンキ空港からヒースロー空港の3時間乗りました。とっても遠かったです。着いた後は少しだけロンドンを観光しました。とっても綺麗な場所でした。僕は家と外のキャラがちょっと違うので、ビックベンの前で記念撮影をママとパパに送る用と、僕用の二つ撮りました。

ダービーシャーへの移動はバスで4時間ほどかかりました。バスはマイケルが運転してくれました。バスを降りる時、全員が「Thank you!」と言うので、マイケルは戸惑っていたようで「Your welcome!」を全員に言うのも少し疲れていたように思います。

1日目、慣れない場所で初めての演奏。リハーサルの時点で、多くの人が足を止めて聞いてくれていました。あとで観光客の人にイリュージョンについて聞かれて英語で答えたりもしました。とてもいい経験でした。夜ご飯はバイキング、みんな自分の口に合わないご飯を他人に擦り付け合っていたのもいい思い出です。

2日目、僕たちの演奏で一緒に踊ったり、ガードのダンスで会場が一体になっているような気もしました。音楽はやっぱり良いなと思いました。言語じゃなくても、音楽で繋がる感覚がありました。夜ご飯は前日と同じバイキング。みんな自分の口に合うご飯を理解したようで、美味しそうに食べていました。

最終日3日目、集客してみようということで、会場近くのレストランの目の前の路上で演奏しました。大聖堂での演奏後、最後まで立って拍手してくれていたおじいさんを忘れません。どの日も当日まで状況が把握できないため、現地指示が多く大変なことが多かったです。イギリスには海外版古畑美音がたくさんいて少し恐怖を感じました。

私が感じたのは、出てくるものがプラスチックではなく、紙や木でできていたり、ケチャップなどのソースの入れ物がビンだったり、文化や景色も、実際に見てみると色々な場面で日本とは違うなど。とても良い刺激になりました。今、私は名古屋外国語大学という大学に通っています。名前からもわかるように、英語の勉強もしています。以前までは留学してみたいと考えていたのですが、今回イギリスに行ってみて感じたことは、日本に住みながら仕事として海外に行きたいなということでした。やっぱり日本食は僕の口に合っていました。たくさんの刺激をくれる海外に、まだまだ行ってみたいという気持ちはあり、この経験が将来を考えるきっかけになったとも思います。今全くしていない英語の勉強も、力を入れ直そうかなと思えました。あと一つ、お金の大切さを感じました。イリュージョンにかかる費用は全て自分で払っているのですが、学業優先の中、頑張っって働いて遠征費を払い切った達成

感と、自分でやり切ったからこそ、心から楽しもうと興奮の気持ちでいっぱいでした。それと同時に、他の面でたくさん支えてくれている両親にも感謝の気持ちでいっぱいです。大好きなイリュージョンで海外へ行って、大好きなメンバーと一緒に演奏できたこと。今回の経験は一生の思い出になったと断言できます。改めて、このイリュージョンの出会いと、25周年のタイミングで大学生になれたこと、本当によかったです。

と最終日の夜にちょっと悲しい気持ちになりながら寝てしまいました。

帰りの飛行機に乗る待ち時間でこのぬいぐるみを買いました。名前は“こめつぶ”です。柳原晏吏ちゃんが名前を付けてくれました。僕もお礼に、晏吏ちゃんが買ったユニコーンに名前を付けてあげました。喜んでくれてとっても嬉しかったです。



楽しかったです

チューバ 杉山実玲

まず、イギリスに降りたって感じたことは明確な文化の違いでした。

街並みや、住んでいる人々、さらには食事。あらゆる事が日本と違っていました。教科書で習うことだけでは知ることしかできない文化の違いというものを行ったからこそ感じられることでした。

イベントなどで演奏した際は、観客のみなさんはとても楽しそうに私たちの演奏を聞いてくれて、こっちまで嬉しくなってしまうくらい楽しかったです。

さらに、街並みが日本とは全然違うからか、街の様子を見ているだけでも楽しく、気候も安定しているので過ごしやすかったです。

今回の英国派遣ではただ普通に学校に行っていたり、働いていたり、一般の団体でマーチングをやっているだけではできない、貴重な体験をさせていただきました。このバンドにいたからこそできたこの体験で今後、外国に目を向けた生活ができるようになるのではと思っています。

昔は日本語さえできれば、生活できると言われていたのかもしれないですが、今の時代は日本語だけでなく、英語ができないといけないのも切実に感じる事ができました。通訳さんやガイドさんの助けがあってなんとか地元の学生と交流を持つこともできました。

英語が喋れれば、ひとり旅行でも楽しくやっていけるのかなと思います。



きっと人生で一度のイギリス遠征。その直前まで、つまりは羽田空港に着いて搭乗口で待っている時でさえ、ずっとなにかふわふわとした形の定まらない気持ちであった。実感はなかった。イギリスへ行く、演奏をする、どこか嘘みたいな気がしたのだ。

実際にイギリスに到着して、耳の後ろあたりから感じる気温の違いに驚きながらバスに乗る。そしてその窓から見えるイギリスがいかにもイギリスらしいと、そんなあたりまえの喜びを噛み締めた記憶がある。

ダービー大学の寮に到着し、ようやく楽器と再会し無事を確認した。そして最初の夕食へと、ダービー市内へ入って行った。ダービー大学の周辺は、僕たち日本人にとっても興味深いつくりをしていた。堂々とおだやかに響くダービー大聖堂の鐘の音が、街のなかに広がっていく。教会を起点に道が伸び、家が立ち並び、人々が暮らしている。たくさんの信仰が基礎となり、その街の歴史と文化が重なっているのだなと思った。

イギリス遠征中になんども、僕たちの着ているイリュージョンジャンパーを見て声をかけてくださる方がいた。“Toyota City”に注目した人もいれば、“Marching Band”に注目した人もいた。そのたびに、豊田市の代表としてここにいるというような思いと、その人にとっての日本のマーチングバンドということの代表になっているというようなことを感じて背筋が伸びた。遠征に参加できなかった仲間の気持ちが、そのジャンパーの背中に刺繍されているような気がした。

イギリス遠征は、間違いなく僕たちの人生において大きな意味を成すだろう。それをきっかけに海外留学や勤務を考え始めた団員を複数知っている。それだけ素晴らしい体験であったのだ。もちろん全てが完璧ではない。参加できる人と参加したくても参加できない人ができてしまったということ、直前まで詳細が全くわからないという不安感、新型コロナの感染により活動に参加できなくなってしまった人がいるという切なさ。だがその不完全の中でも、そこにいたみんなが楽しんで素晴らしい演奏を届けることができた。その満足感は、イギリス遠征に関わったすべての仲間に共通しているのだと思う。僕たちは感謝を忘れるべきではない。素敵な体験の機会を、ありがとうございます。



英国派遣レポート

カラーガード 竹川 恵

私が英国派遣で印象に残っていることは、公演1日目の終わりの先生の言葉とみんなの動きの変化です。公演1日目は、イギリスについて初めて朝から行動をしました。もちろん、チャッツワースハウスに行くのも初めてなら、イギリスで公演するのも初めてなので、スケジュールを把握していても、時間通りに進まないことがありました。また、現地の状況次第で今までの練習通りいかないこともあり、変更するためにも時間がかかってしまいました。楽器など荷物の積み下ろし、着替え、昼食の時間は積極的に動いている人もいれば、何をすればいいのかわからず、ただ立っているだけの人もいました。

1日目の公演終わりに先生から、現地の指示になってしまうけれど、全員が積極的に動いてほしいというお話がありました。私も、積み下ろしの手伝いができていなかったり、公演後は疲れていて指示をしっかりと聞いていなかったりしたなと思いました。

公演2日目は移動や現地での練習の流れをわかっていたこともありますが、1日目に比べると、公演前の動きはスムーズだと思いました。2日目の片付けのときは、みんなが自分のパートの荷物だけでなく、ピットやドラムのように運ぶのが大変な楽器の片付けの手伝いをしていました。片づけ方のわからない楽器はそのパートの人に聞いたり、リーダーたちが声をかけて、片付けを手伝ってもらったり様子を見かけました。

パートを超えて、仲良くなることができましたと思います。



英国派遣を終えて

トランペット 長嶋萌英

私は今回の英国派遣を通して様々な体験をしました。数えきれないほどの素晴らしい経験と、文化、生活様式の違いを目の当たりにできてとてもいい活動だったと思います。その中でも今回は日本との違いに驚いたことを2つほど述べたいと思います。

1つ目は建物です。日本は地震大国ということもありほとんどがコンクリートでできた頑丈なものが多いですが、英国は日本と違い地震が滅多に起こりません。そのため建物のほとんどがレンガ造りでした。まずその違いに驚きました。自然災害によって建築文化も異なっていくこと、そして景観の良さ、日本と違って面白いなと感じました。

2つ目は治安です。これは英国に行く前から言われていました。ヨーロッパは日本ほど治安が良くないと。それを実感する出来事はたくさんありました。道路で人が倒れていたたり、罵倒を浴びせる喧嘩をしていたり、他にも薬物を使っているような人を見受けられたり街中で声をかけられたり。改めて日本の治安の良さ、そして海外の治安の悪さを実感しました。もちろん暖かく話しかけてくれた人も沢山いましたが、皆がみなそうではないことも痛感しました。このことは次の派遣にぜひ活かして欲しいと思いますし、私自身もこの経験は忘れてはいけないと思っています。

今回は豊田のマーチングバンドとして海外で演奏するという人生に二度と無い貴重な経験をしました。日本の公演とはまた違う海外特有の雰囲気やあたたかさを実感し、行ってよかったなと思えました。とても楽しかったです。



8月上旬、illusionの派遣団としてイギリスに行かせていただきました。

イギリスへ行くのは初めての経験で、気持ちが昂る中での出発となりました。現地について一日目は、観光がメインでした。日本とは違った歴史的な建造物や、地震がないという特徴を最大限に生かした建物の造りに驚くことばかりでした。私が一番印象に残った瞬間は、ビッグベンの鐘の音を聴いた時です。町中に響く音と広場に広がる鮮やかな芝が今でも鮮明に記憶として残っています。

また、宿泊先である大学寮についてからも部屋の窓から見える景色や日照時間の長さにイギリスにしていると実感させられました。日照時間の長さには滞在した一週間でも慣れることが出来ず、日本の感覚で過ごしていたら時間はもう夜だったという事が何度もありました。

この大学寮に滞在した期間は同じお店での夕食となりました。歩いて15分ほど、コスモというお店でした。イギリスの料理だけではなく、酢豚やラーメン、ナンとカレーというように各国の料理が楽しめるお店でした。味はと聞かれたら、オブラートに包んでいう他ないなと思いながら食事をしていました。けれども鉄板焼きはどれも美味しく、メンバーのほとんどが鉄板焼きのコーナーに並び長蛇の列を作っていました。また、お店の口コミを書いたら最終日にプレゼントがあると言われ、書き込む子も何人かいました。言葉通り、最終日にはプレゼントを頂くことが出来、お店の人と繋がれたなと思う瞬間でした。

そして、派遣団として現地で演奏させていただいた3日間、毎回の演奏で音楽は人を繋ぐという事を感じていました。言葉が全て通じなくとも、音楽を奏でるだけで笑顔になる、良かったと声をかけてくれる、素敵な場面をたくさん見ることが出来ました。素敵な瞬間を見て良かったと感じると同時に、人を感動させるには演奏者である私たちが楽しむこと、楽しむための努力が必要だと感じました。3日目の教会での演奏、太管先生が一番心配されていた少人数での演奏では日本での夜練では練習にもならないくらいのレベルで、不安の中イギリスに行きました。イギリスについてからも音を出しての練習時間がなく、夜集まっては1時間歌で練習をしたり、他のメンバーにアドバイスをもらったりしました。その甲斐もあって、3日目の演奏では今までで一番まとまりのある演奏で、先生からもよかったと言っていました。

練習の大切さ、自分たちが余裕のある状態で演奏することや自分たちが真っ先に楽しむことの重要さが身にしみて感じた期間でした。

私は、マーチングが大好きです。加えて、海外も大好きです。そして何よりもイリュージョンのメンバーが大好きです。このイギリス派遣という私の大好きが詰まった事業に参加できたこと、参加するために手を貸して承諾してくれた親、事業にかかわって私たちを安全に連れて行ってくれた方々、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。とても素敵で、一生忘れない思い出を作ることが出来ました。ありがとうございました。これからは、大会に向けて練習に励み、演奏で恩返しができるように頑張ります。



イギリス派遣が終わって

フロントピット 新田桃子

今回、海外自体行くのが初めてでした。初めての海外では、日本との違いを感じるが多かったです。

まず、日本とイギリスは建物も素材が違うので、風景は日本と大きく違いました。日本は和風な家や細くて高いビルが多いですが、イギリスではレンガ造りの建物が多く、日本のビルのような高い建物よりも横に長くつながった建物も多かったです。

イギリスも同じ夏でしたが、日本より涼しく過ごしやすかったです。

1日目はチャッツワースハウスでの演奏でした。貴族の家のお庭で演奏しましたが、自然に囲まれた広大な土地でとても庭とは思えない広さでした。それほど屋外の広い場所で演奏する機会はなかなかないので、音の広がり方など経験できないことを多く経験できました。

2日目からは体調崩してしまい、参加ができませんでした。参加ができず残念な気持ちはありませんでしたが、パートの子達の協力で成功できたと思います。

イギリスでは体調を崩してしまってから別移動となり、現地のタクシーや電車に乗る機会がありました。イギリスのタクシーは日本のような同じ形の車が多いのではなくバラバラでした。そして、私が乗ったタクシーは少し大きめのタクシーでした。そのタクシーは後ろの座るスペースが広くなっており、運転席側には折りたたみの座席がついており少ない人数で乗る場合は広々としたタクシーでした。

そして日本の新幹線のような電車に乗りました。電車の中は話し声がずっとあり楽しい雰囲気でした。ロンドンの駅は大きな駅だったので日本でも見るようなブランドのお店や現地のブランドのお店など綺麗で一日楽しめるのではないかなというような駅でした。公演に参加ができなくなりましたが、帰路ではみんなとは違った体験ができたのでいい経験ができました。

左 バスから撮影したイギリスの街並み 右 1日目チャッツワースハウスの演奏会場



イギリス派遣を通して感じたこと

カラーガード 古川菜々美

日本とは異なる文化を学んだり異なる言語で会話をするという経験を通して、日本を離れて他国で生活する事がとても楽しいと感じたし、もっとたくさんの国へ行きたいと思いました。

公演では、たくさんの方々が私たちの演奏演技を観に来てくださっていて楽しそうに演奏を聴いている姿を見てとても嬉しく思いました。私たちの演奏演技で日本の方々に限らずいろんな人達に楽しいと思ってもらえるという事がわかって、これからももっと楽しんでもらえるように頑張ろうと思いました。イベントが終わった後「笑顔が素敵だったよ」とわざわざ声をかけてくださる方や、笑顔で手を振ってくれる子もいました。わからない言葉もたくさんあったけど英語でその方々と会話ができとても楽しかったです。

食事はバイキングやカフェ、レストランなどに行きました。イギリスでの食事は美味しいものも多くて私はあまり日本食を恋しく思わなかったです。次また機会があればもっと色々なものを食べたいと思いました。

自由時間では、イギリスで有名な建物を見に行ったり買い物をしました。日本では見られないような街並みや建物を見る事ができてとても感動したり、日本ではめったに買えない商品やお菓子などもあって全てが新鮮でわくわくしました。

大変だと感じた点は、メニューが全て英語で書かれているので値段や頼みたい物を見つけるのが難しかったり、使い慣れていないお金で買い物をするのがよくわからず戸惑うこともあって大変だと感じました。

イギリス派遣全体を通して、私は改めてマーチングや音楽の良さを感じることができたのでとても良かったです。日本にいただけでは気づけなかったこともたくさんあったので今回のイギリス派遣に参加できてとても良かったし、もっとたくさんの国に行って他国の文化や風景をたくさん見てみたいと感じました。

音楽での交流をきっかけに、自分たちの演奏演技を楽しんでもらえる嬉しさなどを改めて感じて、良い影響をたくさん受けることができたのでこの経験をこれからのマーチングバンド全体の活動に活かしていきたいです。



日本食が恋しくなったイギリス派遣

バリトン 古畑 美音

私は、20年生きてきて初めて日本の外に出ました。人生初めての飛行機でした。フライト時間はとても長かったですが、首を痛めながらも寝ていたらいつの間にか到着していました。言語などが違ったり、初めてのことが多く不安なことも多くありました。しかし、素敵な場所で演奏することができたこと、色んなところを観光することができたことなど、内容の濃い時間が多かったため、とても楽しく、あっという間に時間が過ぎていくのを感じました。

普段のイリュージョンとは違い、予定通りに進んでいくことが少なく、現地についてから指示を受けたりすることが多くありました。そのため、周りを見て臨機応変に対応していかなければならない場面がいくつもありました。ただイギリスで演奏や観光を楽しんだだけでなく、このような経験を経て、今なにをするべきなのか状況を見て行動する力を身につけることができました。

また、イギリスに行くにあたって、自分はたくさんの人に支えられていることを改めて感じることができました。イギリスに行くことを快く了承してくれて、練習で帰りが遅い時にご飯を作っておいてくれたり、金銭面でも大きく支えてくれた家族や、練習する時間が短い中でもいつもの元気は変わらず楽しい練習の雰囲気を作ってくれたメンバー、技術面でたくさんの指導をしてくれた先生方など、私はみんながいたから最後まで楽しんでイギリスに行くことが出来たと心から感じました。

私はイギリスで、普段なかなか話すことのない他パートの子と仲良くなるという目標を密かに立てていました。夕食の時などにたくさん話しかけてお友達が増えました！！

普段ではできない貴重な体験をさせていただいたこと、多くの人に感謝の気持ちでいっぱいです！！！！



日本の特色

カラーガード 松浦芹香

イギリスの空港に着いた時に、まず羽田空港より人が多いからか混雑しているように思えました。空港でチェックインする際に自分たちで自動的にバーコードとかが取れるところはやっぱりイギリスなどの外国の方が発展しているのかなと思いました。

外に出た時は少し寒さを感じました。社会の授業で、イギリスは北海道と同じくらいの緯度だけど、気温は少し低いと習っていたので、北海道には行ったことないので差はわかりませんが、これより寒いんだと思いました。

日本の夏は 20 時くらいに真っ暗になるくらいだけど、イギリスはそれ以上に遅くて、19 時くらいが日本の夕方くらいの明るさで、国での朝から夜までの長さの違いが感じられました。

親や友達への連絡も、8 時間の時差を考える必要があり、日本で暮らすイギリス人や外国人の人たちはお昼とか朝とかに送るためだけに頭を使って苦労していることを自分で体験することが出来ました。

公演の前後、来てくれているお客さんとお話したり、寮やバスの人達と話す時は、向こうが英語だから聞き取れなかったり、意味は知っているのに理解できなかったり、苦労もしたけれど、文や、看板を読んだり、「寒い」の言い方の違いを知ったり、本物の発音？だったり、頑張って会話してみたりと、学校で習っていることや、少し教えてもらったこと、少しでもとっさにありがとうやごめんなさいではなく sorry や thank you を使うことが出来て良かったです。

他にも、日本帰ってきてからもその習慣が身について、咄嗟に出てくるのが英語だったり、海外に行くことで、習慣で変わることがあることも実感しました。

今後活かすことは、他パートとの関わりが、人数が少ない分多かつたし、いつもは喋っていないなかったり、関わったことない子達と喋ったりできたので、それを日々の練習にも活かしていきたいと思いました。

その他、学校で活かせることや、イギリスの雰囲気や気候なども学ぶことができ、また行ってみたいとも思うようになったので、いろいろなことに挑戦することも自分の将来や、夢を作るための 1 歩になることが分かったので挑戦してみたりしてみたいと思いました。



イギリス派遣

カラーガード 柳原晏吏

私は今回英国派遣でたくさんの貴重な経験をさせて頂きました。そもそもマーチングで海外に行くことが出来る経験がなかなかできる事じゃないし、それにプラスでパフォーマンスをさせてもらえたりしてとても充実した1週間だと思いました。

海外でパフォーマンスをするのは初めてだからどんな反応が返ってくるか分からなくて少し不安だったけど演奏が始まると人がたくさん集まってきて一緒に楽しめたと思います。

1 日目はロンドン観光でビックベンとか他にもいろいろたくさん有名なものを見ました。街並みも日本と全く違って映画とかでしか見たことない雰囲気だったので新鮮でした。

2 日目の公園での演奏のときにガードショーで Followme を踊ったら小さい女の子が見様見真似で踊っていてくれるのを見てとっても嬉しい気持ちになりました。他にもパフォーマンスが終わったあとに家族で見に来ていた老夫婦が声をかけてくれて、難しくてなかなか聞き取れなかったけど笑顔が可愛いねと言ってくれました。今まで演奏とかが終わったあとに直接感想を聞く機会がなかったので直接伝えてくれてすごく嬉しかったです。

3 日目は大聖堂で演奏した後に商店街っぽいところに行ってたくさん買い物をしてアンティークな感じがすごく可愛くて最高でした。でも私は個人的にこのイギリス派遣で他パートとのコミュニケーションが取れたと思います。私はいつもあんまり他パートとの交流ができていなくて、同じパートの子としか話さないことが多かったのを機に他パートの子とたくさんお話できて、今では練習のときも話すようになって行って良かったと思います。



日本とイギリスの違い

トランペット 柳原圭佑

僕は初めて海外に行くことになり、今まで海外とは無縁だと思っていたから、とても不安になったが、姉やマーチングの仲間もいて楽しみ半分、不安半分みたいになっていた。

まず不安になったのが言語の違いで、言いたい事が伝わるのかコミュニケーションをうまく取れるのか、など心配だった。しかし通訳の人が丁寧に教えてくれたり現地の人とすらすら話していてその不安は無くなった。自分もあんな風に話せたらいいのにと思った。

また日本と異なる部分の食事や時差の違いなどいろいろあったが、1日目2日目など、生活していく中で心配だったことにも段々と慣れ、それはそれで日本とは違う面があり、その場所による違いや文化もその天候や土地にあったように進化していてそれを楽しめるようになった。

次にイギリスで初めて演奏して、最初はお客さんが集まるか不安だったがリハーサルをしている時でも色々な人から拍手をもらったり、本番や違う公演でもお客様に喜んでもらうと次も頑張ろうと思えた。音楽は言語の違いなんて関係なく、みんなで楽しめたり関わり合えたりできるのだと実感した。今よりももっと上手くなって沢山の人の喜んでもらえる演奏がしたい。

僕はイギリスに行って、文化や言葉の違い不安になる事も色々あったがそれ以上に現地の人と音楽を通してふれあい、実際に体験する事で学べたり実感する事ができた。これは僕にとって宝だと思う。この様な機会をくださった関係者の方と、姉と共に行かせる決断をしてくれた親に感謝の気持ちでいっぱいだ。



United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland

カラーガード 柳原陽向

2023年8月6日から8月12日豊田市と英国ダービーシャーの姉妹都市提携25周年事業として英国ダービーシャーに遠征演奏をしに行きました!!

練習が始まり、短い期間で覚えることが多く大変でした。でもその練習もすごく楽しくて海外で演奏できることがますます楽しみになり、はやく本番を迎えたい!と思いました。

楽しみと初めての海外で不安な思いもありながら迎えた出発当日 たくさんの人にお見送りしてもらい、参加しないメンバーからパートのグループLINEで応援の言葉をもらい、応援してくれる人がいるって幸せだなと思いました。

そしてついにイギリス到着~GB 🇬🇧

いつもと違う環境にドキドキで全然落ち着かず、やっと実感しました。

1日目『チャッツワースハウス』で演奏しました 🎵 ☆

演奏する場所が傾斜になっていて地面も芝生で少し踊りにくい環境でした。

本番、思っていたより人が集まっていたので久しぶりに緊張しました。でもやっぱり本番は楽しかったです!!

2日目『モーリス・リー記念公演』で演奏しました 🎵 ☆ ☆

私はこの日が1番思い出に残っています。

前日にスタッフからガードショーの曲を増やせないかと言われ、急遽踊りを増やすことになりました。夜みんなで部屋に集まり、昔やったことのある曲でできるものを集め、曲を決めて振り付けを知らないメンバーもいたので一緒に振り付け確認しながら覚えて、ポジションの移動を決めました。大変でしたが、夜みんなで集まって練習してる雰囲気がとても良くてすごくいいなと思いました。無事完成し、本番に間に合うことができました。

現地では、お母さんと子供が5人の一組の家族がずっと私たちのリハーサルを見ていました。私たちがアップしているのを不思議そうに見ていて、その様子が可愛くてメンバーみんなで手を振りました。そしたら恥ずかしがりながらも嬉しそうに手を振りかえしてくれました 🎵そして私が通しのリハーサルをしている時、観客席でずっと私たちの演奏演技を見てくれました。リハーサルが終わって私たちが本番の準備をしていると、誰かが私の肩を叩きました。メンバーに呼ばれたんだと思い振り返ると、ずっとリハーサルを見てくれた子たちが居ました。

するとカタコトの可愛い日本語で、「イマノエンソウスバラシカッタデス。ガンバッテクダサイ。」と言ってくれました! 予想外のことにびっくりしました。私も「ありがとう! thank you 😊 🎵 🎵」と返した手を振ってくれました。直接伝えてくれたこと、それを日本語で話してくれたことがすごく嬉しかったですそのおかげで本番をもっと頑張ろうと思えました。

そして迎えた本番。この日もたくさんの人が集まっていました。本番が始まると、手を叩いてくれる人やガードショーの『i want to love you』を口ずさんでくれるお客さんや

『follow me』の踊りを真似して踊ってくれる子供もいて本当に楽しかったです。

やっぱり音楽ってすごいなと思いました。この日は達成感がすごくあってぐっすり寝れました☺️☆

3日目演奏最終日『ダービー大聖堂』で演奏しました🎵☆☆☆これが最後だなんて信じられませんでした。場所がとてもきれいな場所で癒されました。そして迎えた最後の本番!! 本当に楽しくて自分って本当にマーチングが好きなんだなと感じました。

1週間私が大好きなメンバーと最高の場所で最高にいい演奏演技ができた事、貴重な体験が出来たことがとても嬉しいです。このイギリス派遣に関わってくれたすべての人に感謝してます。

行かせてくれたお母さんお父さん、ずっと一緒にいたカラーガードのみんな、他のパートのメンバーみんな元々大好きでしたがイギリス派遣を通して意外な一面やいいところが見つけられてもっともっと大好きになりました💕💕!!!!

スタッフのみなさん、事務局さん、添乗員さん、通訳さん、バスの運転手さん、宿泊寮の方、現地のお店で出会った店員さん、みんなみんな大好きです💕

本当にありがとうございました!

マーチング大好きです。



「イギリス派遣」

フロントピット 六畑 葉月

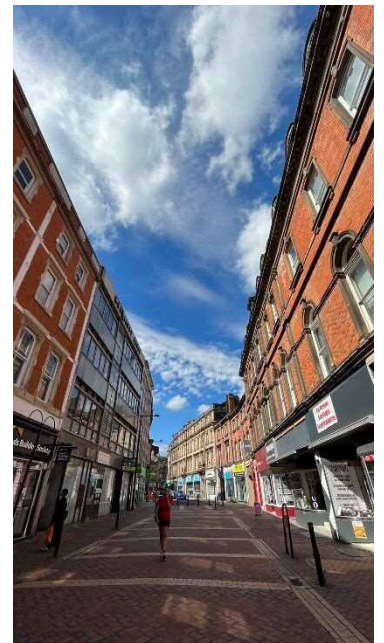
私は、8月6日から8月12日までの期間、所属させていただいているマーチングバンドの一員としてイギリス派遣に行かせていただきました。

今回のイギリス派遣での気づきをまとめていきたいと思います。

私はフロントピットというパートで活動しています。今回私たちのパートは6人での派遣でした。しかし、あるトラブルにより、メンバーの1人が2日目以降出演できなくなってしまったという状況になりました。元々少ない人数での演奏であるため同じ楽譜を演奏している人がおらず、ひとりひとりが重要な役割を任せられている中で人数が減るというトラブルはかなりの苦しい状況でした。そこで私は、他メンバーの新たな一面を発見することになりました。

私は普段から年齢、ポジションともに指示をする側にいることが多いです。しかし今回は、指示を待たず、他メンバーで対応策を考え、さらにその対応策を実現させるために動いている様子が伺えました。基本わちゃわちゃ楽しそうにはしゃいでいる他メンバーの成長を感じられる機会となり、特に高校生2人と中学生1人の対応力が素晴らしかったです。それぞれが自分にできる最大限の行動をしてくれていて本番もなんの滞りもなく演奏しきることができました。今回のイギリス派遣での1番の収穫であったと感じています。

普段の活動では変わり映えのない風景で、成長を直に感じられる機会はなかなかありませんが、環境が変わり、個人の責任感をより強く感じられる場が設けられたことで他メンバーの頼りになる一面を知ることができました。今後も、自分含めパートメンバー10人で支え合い、全員で悔いの残らない最高の2023年度にしていきたいと思っています。素敵な経験をさせていただきました。ありがとうございました。



英国派遣で感じたこと

指導者 飯盛 孝宏

多くの団員が、海外が初めてと聞いていました。到着初日のイギリスでは、目に映るものすべてがとても新鮮で、日本とは違った多様な価値観であふれている様に子どもたちの目は輝いていたように思います。

翌日からは、姉妹都市の各会場で3公演を行いました。心配していた天候にも恵まれ、全日程で予定通りの公演が実施できました。

公演初日のチャッツワースハウスでは、広大な庭園で演奏しました。演奏が始まると現地で偶然訪れたような方々が足をとめ、芝生で遊んでいた家族は手拍子で音楽を楽しんでいました。

二日目のモーリスリー公演では、現地の音楽イベントへ参加しました。現地の子どもから高齢の方が多く訪れていて、年齢問わず演奏に合わせて踊って来ていました。

三日目のダービー大聖堂では、いつもとは違った雰囲気でしたが、場所にあった演奏演技で、来場者の皆様も満足そうにされていました。

現地では、少なからずトラブルがありましたが、団員たちが自ら積極的に動いてくれたことも公演成功につながったと思っています。

カラーガードは、急遽追加した演目を自分たちで話し合い無事やりきってくれました。パーカッションは、急なトラブルで演奏が難しいと思われた場面でも自分たちで考えて乗り越えてくれました。ブラスは、派遣公演の練習が非常に短く、不安だと言っていた演目も最終日にしっかりと演奏してくれました。

団員のみなさんが頑張ってくれたことは、忘れることはありません。現地での交流も含めて、豊田市の代表として本当によくやってくれました。

この経験をそれぞれの立場で生かしていき、豊田市の音楽のシンボルとして、市民の皆様楽しいマーチングバンドをお届けしていきたいと思います。



英国派遣事業について

指導者 上妻 美都紀

今回イギリス遠征という貴重な機会を頂きありがとうございました。

私はスタッフという立場で今回同行しましたが、海外でのイベントは今まで経験したイベントと違い、現場合わせが多く行く前は不安がとても大きかったです。また今回の遠征では引率スタッフも少なかったため、私自身としても不安がありました。

1日目の公演は、大きな庭園での演奏演技でした。

今まで屋外でのイベント経験はありましたが、経験したことのない広い会場での演奏演技でした。でも見に来てくださった方々が大きな拍手をしてくださり、メンバーも安心して演奏演技することができたと思います。

2日目は公園での音楽イベントに出演しました。

1日目のイベント終了時に、当初準備していた出演時間より長く演奏してほしいと言われてしまいました。選抜メンバーでの遠征だったこともあり、演奏が可能な曲にも限りがあり焦っていましたがメンバーとも相談して急遽演奏曲やガードショーを追加して出演することになりました。そんな急な変更にもメンバーは臨機応変に対応し、無事2日目の公演も大成功に終わったと思います。この公演では日本で感じたことのない大きな声援や拍手を頂きとても良い経験になったと思います。

3日目の公演は大聖堂で出演しました。

大聖堂での出演も今までしたことがなく、大聖堂は音がひびくので音量の調整等して望みました。大聖堂の演奏はあとからメンバーに感想を聞いたらとても演奏していて心地よく演奏することができたようでした。

イベント出演でもそうですが、自由時間でも海外ということもあり普段と違う経験をさせて頂き本当にメンバーにとって良い経験となったと思います。私はこの海外遠征で当初の不安な気持ちは公演を重ねるごとに、メンバーの成長や観客の声援で不安な気持ちは薄れ、安心して行くことができました。本当にこの団にとって貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。



ダービーシャー国際交流を終えて

指導者 山田 拓未

2023年8月6日から12日の一週間、私達豊田市ジュニアマーチングバンドはイギリスダービーシャーの姉妹都市25周年記念事業として現地で演奏をしました。

今回私はメンバーの引率と演奏のサポートとして関わらせて頂き貴重な経験をさせて頂きました。2006年からこの団に入団し卒団した後もスタッフとして在籍していますが今回のような海外で演奏するイベントはなかったので楽しみな反面、不安や緊張もありました。空港からの長時間移動や現地特有のルール、言語の違いで団員やサポートして下さった引率の方々も大変でしたが無事に演奏も終え問題なく日本へ帰ることができました。

普段から団行動としての意識がある団員の行動力を今回の遠征で改めて感心し、入念に準備して下さった当団事務局職員や団外部でサポートして頂いた皆様には頭が上がりません。

団員達には現地の文化学習や非日常空間の体験をして人として成長してもらいたいのもこのイギリス遠征においての目標でしたが私は団員全員の絆や関係を深めてもらいたい気持ちが一番ありました。10代の時に同世代と一週間同じ空間で過ごしそれも海外で活動することは滅多に無い経験です。毎週仲間達と同じ目標に向かって練習し普段から切磋琢磨している団員達ですが、今回のイギリス遠征で連携力が上がったのを感じています。

イギリス遠征の帰路で私は団員達の今回の感想を聞いて普段あまり話さない子と仲良くなれた話や普段交流している仲間がより好きになった話をメンバー達から聞くことができ非常に嬉しく思いました。

大会のためのショー作成や地元イベントの出演もありイギリス遠征に向けての練習は団員達にとって非常に大変だったと思いますが現地のお客様から歓声や拍手を頂き一生思い出に残る演奏になったと感じました。

団員達の保護者の皆様や協力して下さったサポートの皆様、企画して頂いた豊田市職員の皆様、全てに感謝します。



英国派遣事業について

指導者 小野 琉聖

なかなか機会のない海外派遣というイベントを通じて、僕自身楽しみはもちろんありましたが不安の方が大きかったことが正直な感想です。

初日はバスから飛行機まで長時間の移動で、現地に到着しても観光どころでは無いと思っていましたが、実際に到着してみると日本とは全く違った景色や空気感に高揚し、みんなと楽しく観て回ることができました。

2日目からは公演も始まり、練習はしていたものの「本当に人は集まってくれるのか」「観てくれる方々に喜んでもらえるのか」といった不安の中でアップやリハーサルをしていると、これはリハーサルだよと言わないといけないう程たくさんの方々立ち止まって見てくださり、本番が始まると楽しくて仕方がないという雰囲気演奏演技をすることができました。

その日はそのままチャッツワースハウスの中を見させていただき、ヨーロッパの美術に触れてなんとも言えない気持ちになりました。

普段僕は美術や芸術には興味が向かない節がありますが、その時は没頭してみることができ、思い出深い1日となりました。

3日目、4日目も公演にはたくさんの方が来てくださり夜には見えたメンバーの疲労などもすっかり無いような雰囲気楽しく演奏演技をして、良い体験が出来たと心から言えると思います。

毎日夜ごはんを食べに移動をしたりする際に、現地の方と共に行動をしていました。そこで、僕は外国語大学へ通っていたこともありたくさん話をして、イギリスではどんなことが流行っているのか、どんな生活を送っているのかなどを聞くことができました。

全体を通して、日本との文化の違いや価値観の違いなどを少し知ることができて、また機会があれば行ってみたいと思うことが出来たので良い形で海外派遣を終えられたなと思いました。



英国派遣事業について

指導者 美濃羽 伸乃介

初めての海外ということで、色々と不安な事もありましたが、大きなトラブルもなく無事にイベントを終わらせることが出来たので良かったです。ある程度の情報を持った状態でも実際に行ってみないとわからないことが多く、現場指示が基本になっていましたが、メンバーはしっかり話を聞いて対応できていたので助かりました。

環境の変化や現地での移動が多く、割とハードなスケジュールで疲れが溜まっている子や体調を崩してしまう人が居たので、自身での体調管理や事前準備などしっかりして行くべきだと思いました。また、徒歩での移動中や自由行動では団体での移動のため人数が多いことや、日本との交通ルールの違い、不審者との遭遇など危険なことも多かったので気をつけて行動しないと何かのトラブルに巻き込まれてしまうと思いました。今回は現地のガイドの方が付いてくださっていたので、トラブルが起きないように事前に注意をいただいたりと安心して行動できました。

イベントについては、海外の方が盛り上がりしてくれるのかなど心配していましたが、実際には楽しそうに見てくださる方ばかりで嬉しかったのと、音楽は国境を越えるということを再認識できて良かったです。メンバー達も楽しそうにパフォーマンスできていたと思うので、そういった姿を見ることができ、上手く行って良かったなと思いました。

今回は、海外で演技演奏をするという貴重な機会を設けていただきありがとうございました。海外派遣で学んだことをこれからの活動で活かしていきたいと思います。



イギリス派遣

指導者 杉本 宗都

イギリス派遣を通じて、当たり前のことですが、文化の違いをととても感じました。日本では当たり前のように守っているルールや暗黙の了解、そういった国民性の違いはととてもはっきりしていました。日本人が礼儀正しいと海外の人たちが思うことに納得しました。

一週間という短い間ではありましたが、イギリスという国を少しでも知れる良い機会になったと感じています。こういった経験は中学生や高校生にとってはとても刺激的な体験だったと感じます。特に言葉が通じない、私たちの常識が常識ではない、貨幣の価値、国民性こういった情報だけでは知りえない細かな部分は実際に現地に行かないとわからないことだと思います。このことから、イギリス派遣という機会は人生において意味のある物になったと思います。

それとは別に、非言語コミュニケーションは世界共通なのだと実感しました。私たちが楽しいと思える音楽は現地の人々にとっても楽しいと感じてくれ言葉が通じなくても、音楽で気持ちは共有できることを改めて実感することができました。

また、公演をするにあたって色々な準備を行い、実際に演奏演技をして拍手を沢山いただいたことは、団員にとって自信に繋がる物になったと思います。この経験をぜひ忘れずに日本での活動に活かして欲しいと思います。

派遣を通じて良い事もありましたし、上手くいかなかった事もありました。スケジュールの共有ができていなくて急遽、変更することもありました。ですが、柔軟に団員は対応してくれたこと、その裏で事務局さんや現地を含むスタッフの方々が動いてくれたおかげもあり、団の結束力があってこそ成功だと思っています。

今回の派遣の経験を活かして、今後の活動を良いものにしていきたいと思っています。貴重な機会をありがとうございました。



活動写真

7月30日 出発前壮行会



8月6日 出国



8月7日 英国到着





8月8日 公演① チャッツワース・ハウス





8月9日 公演② モーリス・リー記念公園





8月10日 公演③ ダービー大聖堂





8月11日 英国出発日



8月12日 帰国



8月17日 帰国報告会

